

待望の
第一弾!

戦後日本の闇に迫るドキュメンタリー映画

放射線を浴びた

X年後

36歳の若さで亡くなった父
半世紀前、太平洋核実験を目撃した海の男たち
——
彼らは「被ばく者」だったのか？

思いは風化しない

2015年 第89回 キネマ旬報ベストテン〈文化映画部門〉

文部科学省選定

伊東英朗 監督作品 ナレーション:鈴木省吾 製作著作:南海放送 協力:日本テレビ系列 NNNドキュメント
2015年 / 86分 / 16:9 / カラー / 日本 / ドキュメンタリー <http://x311.info>



これは、遠い時代・遠い場所の話ではなく、 私たちの「X年後」の物語である。

終戦直後の1946年。太平洋上で、米国による核実験が始まった。

しかし多くの漁船が、その後100回を超える実験期間中も、近海でいつも通り操業を続けていた――。

間に葬られたビキニ水爆実験の真相に迫る前作『放射線を浴びたX年後』から3年。

高知県室戸市ほか各地での継続取材は、新たな展開を迎えていた。

安全や核をめぐる国のあり方があらためて問われる今、かつて日本の繁栄を支えた海の男たちのメッセージに、
地方TV局のディレクターが迫った渾身のシリーズ第二弾！



「私の父は、なぜ死んだのか？」
半世紀前の太平洋核実験、
室戸の漁師たちが伝える
無言のメッセージとは――？

東京で広告代理店を経営する川口美砂さん、59歳。故郷である高知県室戸市で、映画『放射線を浴びたX年後』を観たことがきっかけで、元漁師だった父の早すぎる死に疑問を抱き始める。当時「酒の飲みすぎで早死にした」と言われた父。本当にそうなのだろうか？ 高知県南国市在住の漫画家、大黒正仁さん（ペンネーム：和氣作。代表作「女帝」など）もまた、映画との出会いがきっかけとなって父の死に疑問を抱く。愛する父への強い思いが、二人を動かし始める。

一方、取材チームは放射線防護学の専門家と共に、1950年代当時、雨水の中に高い放射性物質が測定された沖繩、京都、山形を訪れ、独自に土壌調査をおこなう。民家の床板を外し、半世紀ぶりに現れた土。遠く離れた太平洋でおこなわれた核実験は、今も日本列島に影響を及ぼしているのだろうか？

元漁師たちの証言、破られた船員手帳、厚労省への情報開示請求――。日本列島を揺るがした巨大被ばく事件から半世紀を経た今、決して消え去ることのない「被ばく」の傷跡が、徐々に明らかになる。

今作までの道のり

前作『放射線を浴びたX年後』は、ローカルTV局・南海放送（愛媛）が8年にわたる取材の集大成として公開した映画。その原型となる番組は、日本テレビと系列29局がつくる【NNNDキュメント】でたびたび全国放送され話題を呼んだ。映画公開から3年が経過する今なお全国各地で映画上映される今なお監督の伊東は「これはゴールではない。事件を解明したい」と取材を継続。その思いはテレビ放送や第一作にとどまらず、今回の第二弾公開へと結実した。

太平洋核実験とは

米国が1946年から1962年まで、中部太平洋のマーシャル諸島ビキニ環礁やクリスマス島、ジョンston島などで行った一連の核実験（計100回以上）。1954年3月1日に爆発させた「ブラボー」は広島に落とされた原爆の1千倍以上の破壊力があることで、近海で操業中の第五福龍丸（乗組員23人）が被ばく。同年9月、無隊長の久保山豊吉さんが死亡したことで、日本全国に知れ渡った。

制作：伊東英朗 監督：山内俊彦 企画：大西康司 シニアプロデューサー：長瀬英夫 プロデューサー：小倉健嗣
 構成：日笠昭彦 脚本：山内俊彦 音楽：菅野よう子 特別出演：大ニガシ株式会社 協力：日本テレビ系列 NNNドキュメント
 制作著作：南海放送 監修：高松市立博物館 監修：高松市立博物館 監修：高松市立博物館 監修：高松市立博物館
 写真協力：徳島市教育委員会（徳島県立歴史資料館） 共同制作：NHK 2015年7月6日 16:00 / カラー / 日本ドキュメンタリー

放射線を浴びた
X年後 2
http://x311.info

2024年7月20日(土)14:00(開場:13:30) 出演者の川口美砂さん来場
 カトリック河原町教会 地下ヴィリオンホール
 参加費:会場にて支援金をお願いします
 お問い合わせ メール/seiheikyo@kyoto.catholic.jp
 電話/075-223-3361 ①②③10:00~16:00
 主催/京都教区カトリック正義と平和協議会

今後の上映予定
 ■放射線を浴びた X 年後Ⅲ
 「サイレント・フォールアウト～乳歯が語る大陸汚染～」
 11月16日(土)14:00
 上映前に伊東英朗監督の講演予定